

平成 14 年 7 月 27 日

みんなで芝をはろう！

児童遊園が区民参加でリニューアル

本日 27 日（土）、南長崎二町目児童遊園（南長崎 2-2）で、改修工事の総仕上げとして、地域の区民たちにより「みんなで芝をはろう会」が開催された。地域住民や地元小学校の子どもたちなど約 60 名が参加し、みんなの手で芝生が貼られ、鮮やかな緑の広場がよみがえった。

南長崎二町目児童遊園は、面積 440 平方メートル、通称「さくら広場」と呼ばれる小さな公園。平成 5 年に区が用地を取得し、児童遊園として整備するにあたり、区民ワークショップが開かれ、約 1 年にわたりどのような公園にしようかが話し合われた。この話し合いの中から、「緑と花の原っぱ公園」のコンセプトがまとめられ、区内では唯一の全面芝の公園として平成 9 年に誕生した。

植栽や花壇、遊具やベンチ等を公園の外周部に配置し、中央部をオープンスペースとして緑の芝生で埋め尽くした公園はまさに「広場」。通称の「さくら広場も」、街路樹であった区の木「ソメイヨシノ」が開園時に移植されたことから、公募により決められたもので、桜の時期には地域のおまつりも催されている。また、ワークショップのメンバーを中心に、開園後、花づくりグループ「ボランティアさくらの会」が結成され、公園花壇の植栽や水遣り、芝生の雑草取りなど、住民自主管理で公園の緑が育てられてきた。

今回、誰もが使い易いバリアフリーの改修工事が行われることになった。そのため、一時芝生をはがすことになったが、従来のコンセプトを活かして、再び芝を貼ることになった。

そして、この芝生の広場にこれからも長く愛着を持ってもらいたいとの想いから、区が芝貼りへの参加を地域に呼びかけたところ、「ボランティアさくらの会」をはじめ、町会等がこれに賛同、本日の「みんなで芝をはろう会」の開催となった。

午前 10 時から始まった本日の会には、地域住民や地元小学校の子どもたちなど約 60 名が参加し、広さ約 300 平方メートルの部分に、40cm×25cm 角の四角い芝生マット約 3,000 枚を貼りつめていった。朝から真夏の日差しが照りつける中、参加者たちは汗びっしょりになりながらも、田植えと同じ要領で、1 列ずつ曲がらないように芝生マットを並べていった。大人たちにまじって子どもたちも大奮闘し、芝生貼りというめったにできない体験に夢中になっていた。みんなの協力で次々とマットが貼られていくうちに、1 列 1 列と緑の広場が蘇っていき、参加者たちの表情にも笑顔がひろがっていった。

「ボランティアさくらの会」のメンバーたちは、「芝生はやはり空気が違いますね。朝晩、緑のにおいを嗅ぐと心が安いで、生きているもののエネルギーをもらえる感じがします」「芝生は寝ころべるからね。ここは誰でも自由に入れる広場だから、昼間、若い人が日光浴していたりするよ。誰にも緑に対する憧れがあるんじゃないかな」と、芝生の広場の魅力を語っている。

また、会のメンバーたちは、この広場がいつでも気持ちよく使えるよう、毎日の水遣りや雑草取り、園内の清掃などを今後も交替で行っていくという。現在のメンバーは約 20 名ということだが、「こういう街中に、誰でも自由に入れる憩いの場があることはとても貴重だ。いつもきれいにしておくのは大変なことも多いが、みんなで世話をしていく中で、ここからコミュニティが生まれていったらいいね」と、これからの広場への思いを語っていた。

詳細：公園緑地課長

平成 14 年 10 月 5 日

芝生の広場・南長崎二丁目児童遊園 「みんなで芝をふみしめよう！」 地域住民が自主管理の会結成、区と協定締結

本日 5 日（土）、南長崎二丁目児童遊園（南長崎 2-2）で、この 7 月に地域住民たちの手により張られた芝が根付き、青々と成長したことを祝って「みんなで芝をふみしめよう会」が開催された。芝生を育てるにあたっては、地域の住民たちがボランティアで水遣りから草取りなどを行なってきた。これを機に、今後もみんなの広場として自主管理していこうと、ボランティアグループを母体に自主管理の会を結成、本日の会でボランティア清掃と花壇の管理に関する協定を区と締結した。

南長崎二丁目児童遊園は、面積 440 平方メートル、通称「さくら広場」と呼ばれる小さな公園。平成 5 年に区が用地を取得し、児童遊園として整備するにあたり、区民ワークショップを開き、「緑と花の原っぱ公園」とするコンセプトがまとめられた。この構想を活かし、区内では唯一の全面芝の公園として平成 9 年に開園、「誰でも自由に入れる芝生の広場」、「地域コミュニティの憩いの広場」として親しまれてきた。

今年度、この児童遊園を改修することとなり、工事のため芝生をはがすことになった。しかし、地域住民の中には芝生の広場への愛着が強く、再び芝生をとの声が大きかった。そこで、改修工事がほぼ完了した 7 月 27 日、区の呼びかけで「みんなで芝をはろう会」を開催、地域住民や地元小学校の子どもたちなど約 60 名が参加し、約 3,000 枚の芝生マットを広場に貼った。芝をはってから根付くまで、広場への一般立ち入りは禁止されていたが、その間約 2 ヶ月、猛暑の時期の水遣りや草取りなど、地域住民がボランティアで芝を育ててきた。その甲斐あって芝はしっかり根付き、緑豊かに成長した。本日の「みんなで芝をふみしめよう会」は、再び誰でも自由に入れるようになったことを喜び合うと共に、これを機に結成された「南長崎二丁目児童遊園自主管理の会」（会長：庭野彰彦氏）が、「ボランティア清掃の協定」（園内清掃、除草等）並びに「みどりの協定」（花の植え替え、灌水、消毒等花壇の維持管理）のふたつの協定を区と取り交わす締結式として開かれた。

午後 12 時から開かれた会は、高野之夫豊島区長と「自主管理の会」庭野会長との協定書取り交わしからスタート。高野区長は「地域のみなさんの力で作られたこの芝生の広場は、区がめざす文化の風薫る街、その豊かな心の証し」と称え、「心豊かな街づくりのため、ともに力を合わせていきましょう」と挨拶、庭野会長も「仲良く心をひとつにして、緑の広場を自然に大きく育てていきましょう」と集まった約 50 名の地域住民たちに呼びかけた。その後、月桂樹の記念植樹と参加者全員によるテープカットが行なわれ、参加者たちは広場に足を踏み入れ、緑の芝草の感触を楽しみあった。

自主管理活動のこれからについて、庭野会長は「朝はおはよう、そしてこんにちは、こんばんはと、挨拶し合えるコミュニティの場として、みんなで広場を育てていきたい」と語っている。

詳細：公園緑地課長